

下関市

「持ち上げない介護」推進へ

モデル施設を選定

山口県下関市は、介護人材確保のためノーリフティングケアを推進する。核となるモデル事業所として、8日付で社会福祉法人松美会（松永清美理事長）のアイユウの苑しおはまを選定した。リフトなど必要となる機器の購入費をパッケージで支援。ノーリフティングケア定着後は、地域の他の事業所に研修の場を提供したり、視察を受け入れ普及の核となってもう。



モデル施設となるアイユウの苑しおはま

ノーリフティングケアは、介護する側、介護される側に安全な抱え上げ

ない、持ち上げない、引きずらないケアと定義。人材確保対策として、第7期介護保険事業計画に位置づけた。県をあげて取り組んでいる高知県をモデルとした。補助額は680万円で、補助率は2分の1。

1. 市の単独事業として予算を確保した。リフト、スライディングボード、グロープなど機器は施設が必要とする機器が購入できるようにする。松美会は社会福祉法人の介護で全国で初めてISO9001を取得した法人。市内で4カ所の拠点を展開する。「アイユウの苑しおはま」は全室個室ユニットの地域密着型特別養護老人ホーム。定員29人とコンパクト

で、集中して研修も可能。そのためノーリフティングケアが定着しやすいと考えた。新年度からスタートし、半年程度をメドに定着させる予定だ。モデル施設は1カ所だけだが、独自の認証資格をつくるなど法人全体としてもノーリフティング

ケアの定着を目指す考えだ。「機器を使ったノーリフティングケアは若い人にはかっこよく、高齢な職員は働き続けることができる環境になる。介護のイメージアップにはこれしかない」と期待している」と辻中浩司事務局長は話している。

雇用管理改善で事例紹介

介護労働安定センター 東京支部 介護ロボ、導入プロセス重要

介護労働安定センター東京支部は19日、「先進技術活用と雇用管理改善で開く介護の明日」をテーマに経験交流会を開催。同センターの支援を受けて取り組んだ3事業所が事例発表した。介護ロボットの導入に取り組んだ杜の癒しハウス文京関口（社会福祉法人三幸

福祉会）の柳沼亮一施設長は、劇的な作業効率の改善はなかったが職員が自発的に取り組んだ導入プロセスに効果があったと話した。同施設は定員56人の介護付き有料老人ホーム。HAL腰タイプ、マッスルスーツ、愛移乗、シルエット見守りセンサーの

4種を導入。導入にあたっては、委員会をつくり、選定を任せた。その際、業務の何を改善したいのか、目的を明確にし、目的に沿った導入を促したところ、「職員のテンションが上がった」という。「ロボットという新しいツールの導入で何かが変わるかもしれないというわくわく感が生まれ、他の職員にも伝染した。自発的に取り組めるようにしないと結果的にホコリをかぶるだけ」。訪問介護のカラースの田尻久美子社長は市販のツールなどを活用し、積極的にICT化を推進していることを報告した。ヘルパーに人気のあるのはビジネスチャット。利用者毎にルームを作成し、活発に情報交換しているという。しかし、自治体毎に様式が異なり、事業所をまたいでの情報共有が難しいなど本事業所の効率化には多くのカベがあると指摘した。



ロボット導入を紹介する柳沼氏

また、小平アットホームケアサービスの多鹿洋所長は、ヘルパー定着に向けメンター制度を導入したことで、「ピリピリムードがなくなり、明るくなった。アットホームなケアはアットホームな職場から」と話し、共感を呼んでいた。

人材 インターンで受け入れへ

外国人 川崎市 海外とのルートづくり狙い

川崎市は来年度、外国介護人材のインターン

から受け入れを行おうとする事業所にも広げるのが狙いだ。

受け入れ希望事業所にも手挙げをしてもらう。対象とするのは、無資格

受け入れ希望事業所が現地を訪問したり、スカイプなどを使って面接を行うなどのマッチングを行うことも想定している。

に、受け入れ事業所やサポートセンター、市がもう一度川崎に来て働きたい」と思ってもらえるような環境や支援を提供できるかがカギ。事業を

奉優会がデイのターミナルケアなど表彰

事例発表会に154事例
社会福祉法人奉優会
「ビス喜多見」のターミナルケアの取り組みが選ばれた。看護師を配置し医療対応が可能な認知症対応型サービス。入退